教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

郷田 寛二・教育認知心理学コース・修士課程2年

国際学会：European Society for Cognitive Psychology
参加地・期間：イギリス，シェフィールド ・2025年9月2日～9月5日
発表題目：The Conceptual Structure of Ephemerality and Their Links to Well-Being: Insights from Natural Language Processing

成果の概要

今回私はイギリス，シェフィールド大学で行われたESCoP (European Society for Cognitive Psychology) 2025に参加し，“The Conceptual Structure of Ephemerality and Their Links to Well-Being: Insights from Natural Language Processing” という題目で口頭発表を行いました。本発表研究は，日本の芸術や文学に深く根付く美的価値観である「儚さ」に焦点を当てたもので，その概念的・感情的・認知的構造やその感情を生起させる具体的な事物，および儚さとWell-Being（幸福）との関連を，自然言語処理アルゴリズムを用いて解明することを目的としたものでした。

私にとって国際学会の参加・発表は今回が初めてで，国内学会でもポスター発表が主だったため，初めての国際学会になぜ口頭発表で応募してしまったのかと若干後悔していました。その実，発表スクリプトを組んだり，想定質問への回答を考えたりするのは骨の折れる作業で，加えて自身の語学力に不安を感じる部分もあったため，学会に参加している最中も自分の発表のことを考えてしまうことがありました。しかし指導教員であるパク先生に直前まで発表資料の推敲を手伝っていただいたり，友人に発表のアドバイスをもらったりと周囲からの助力もあり，無事に本番の発表を終えることができました。口頭発表では15分間の発表のあとに5分間の質疑応答があり，海外では馴染み深いとは言えないであろう儚さを題材にした発表にも関わらず，積極的に質問・コメントが飛び交い，大変学びのある時間となりました。特に，儚さの文化差や幸福との関連には皆さん興味を持ってくださり，儚さ研究の開拓可能性を探る上で大きな示唆を得るとともに，今後の研究計画の立案，本研究に係る論文執筆を行う上での指針を受け取る絶好の機会であったと感じています。そして何より，海外の研究者の視点から儚さという研究テーマを俯瞰したときに，どのような点が関心を集めやすいかという疑問を考える上でこの上ない示唆を得たと言えましょう。

会場は広く確保されており，地下1階から2階がポスター発表会場として開放されているほか，10個ほどのホールが口頭発表やシンポジウムの会場として用意されていました。学会全体で扱っているテーマは，記憶研究がメインである印象を受け，記憶研究の権威とされる研究者たちの姿も見えました。私は特に学会2日目のセクションに興味を持ち，様々なポスター発表を聴いて回ったり，口頭発表を聴いたりしました。また私の発表セクションはSensation & Perceptionというタイトルでありながら，運動の予測モデルの脳研究から，エンドウ豆の知覚的補完に関する植物を扱った研究までテーマは極めて幅広く，認知心理学という学問領域の懐の広さを改めて実感する機会となりました。

ランチは主にビュッフェ形式で，コーヒーブレイクの時間には紅茶やコーヒー，ビスケットも提供され，そこに居合わせた参加者たちと飲み食いしながらポスターを見て廻りあれこれ話すこともできました。学会3日目夜のカンファレンスディナーは，シェフィールド大学近隣（敷地内?)の会場で行われ，寿司やラーメンなどの日本食を含む多様な料理店が並び，事前に支払った参加費がチャージされたカードで食事する方式で大いに楽しめました。そこで出会った参加者と研究の話やお互いの国の話をして交友を深めたあと，連絡先を交換することもでき，研究者のコネクションを作る場としても充分に機能していると感じました。

総じて，私にとって初めてとなる今回の国際学会への参加・発表はとても学びが多く有意義で，そして刺激的で楽しいものとなりました。この貴重な経験も，教育学研究科のグローバル教育展開オフィスを通じた支援がなければ，物価の高騰等もあり，得ることが難しかったのが事実です。研究者として成長する機会を下さった関係各位に深く感謝を申し上げます。今回の経験を次の研究計画に繋げ，次回の学会等ではより良い発表ができればと思います。有難うございました。